おわりに

本研究は、インクルーシブ教育システムの理解啓発という大きなテーマを課題として本研究所と 10 の県市が取り組んだものである。それぞれの県市はそれぞれの課題を持って集まっており、正直に言えば「寄せ集めの研究」になってしまう危惧もあった。しかし、それは、研究１年次の第１回研究推進プログラムの時点で全くの杞憂であることがわかった。各県市の課題意識は明確であり、地域実践研究員は積極的に相互に交流し、それぞれの良さを学び、自らの研究に取り入れていた。インクルーシブ教育システムを構築するという大きな旅の途上にあって、それぞれの課題を持ちながらも共通項をさがし、同じ方向を目指そうとする地域実践研究員の姿は力強いものであった。そして、それぞれから提出された研究報告は、地域の課題解決に活用できるだけではなく、全国の自治体の参考になるものばかりであった。

全国に 1,800 近くある都道府県や市区町村は、どれ一つ同じものはない。したがって、他の自治体の好事例を、単純に模倣するだけではうまく機能しないのは言うまでもない。その意味では、本研究の成果もそのままでは活用できないかもしれない。しかし、それぞれの県市の課題設定の在り方、解決の過程、目指す教育の姿など、本研究を構成するそれぞれの研究から、各自治体にとって参考になることが多いと思われる。

インクルーシブ教育システムが子ども一人一人に応じることを基本とするように、一つ一つの自治体の実態や課題にあった取組が有るはずである。本研究の 10 の県市の取組を参考にしていただき、全国の自治体が、それぞれにあったインクルーシブ教育システムの構築に、引き続き取り組んでいただけることを期待しつつ、本研究成果報告書を送り出したいと思う。

＜謝辞＞

本研究をまとめるに当たり、研究協力者、研究協力機関の方々をはじめ、多くの皆様のご協力をいただきました。ここに感謝申し上げます。

長期派遣型地域実践研究員の島津裕子さん、若月雅子さん、古川和史さん、髙坂正人さん、三好辰昌さんとは、それぞれ１年間、ともに学ばせていただきました。地域の課題を背負い、困難があっても粘り強く研究を続ける姿が頼もしく感じられました。教育現場で懸命に子どもと向き合い、保護者や地域とつながっている先生方の思いや願いをいつも大切にし、それを、私たち、研究所のスタッフに伝えてくださいました。

短期派遣型地域実践研究員の浅野純一さん、太田和成さん、遠藤浩一さん、青木高則さん、吉江紫さん、雉島邦彦さん、鈴木美保さん、岡野由美子さん、勝山護さん、高梨俊美さんは、教育行政の立場で日々お忙しい中、短期間で地域に役立つ研究をまとめてくださ

いました。研究推進プログラムでの皆さんの積極的な姿勢と、お互いの良さを学び合う姿に感銘を受けていました。

研究協力者の宮内有加さん、寳來生志子さんからは、通常の学級の学級経営や授業のスペシャリストとして、また、本研究の成果のユーザーの立場として、研究チームにはない視点から貴重なご助言をいただきました。青山新吾さんからは、ご自身が目指す特別支援教育と通常の学級の教育の融合という視点をいただき、本研究が向かうべき方向を示していただきました。深草瑞世さんには、国が目指す教育の在り方や考え方について、丁寧にご指導いただき研究を導いていただきました。また、入間市、春日部市、草加市、深谷市、藤枝市の教育委員会の皆様には、教育現場との調整を丁寧にしていただきました。

そして、いつも前向きに研究に取り組み、研究代表者を支えて下さった本研究所の研究チームの皆さんにも敬意を表したいと思います。

皆様、ありがとうございました。心より感謝申し上げます。

研究代表者
インクルーシブ教育システム推進センター
上席総括研究員　久保山　茂樹